

福島復興本社開所式（所信表明）

2013年1月4日

このたび復興本社代表を任せられました石崎です。どうぞよろしくお願いたします。私は、元旦にこの地に入りまして、地域の皆さま方と素晴らしい海から昇る初日の出を見ました。新たな力を頂いた気持ちであります。そして、今朝は、この近くの寮から30分かけて徒歩で出社いたしましたが、この美しい山、海、この素晴らしい環境を、私どもは残念ながら汚してしまったということを改めて強く感じました。そして、もう一度この素晴らしい自然のある故郷へ、避難をされている方々が一日も早くお戻りになって頂くことに、とにかく全勢力をあげようと新たに誓いました。

社員の皆さん、思い起こしてください。私どもが携わっている電気事業は、明治からこの福島県に大変お世話になっております。水力、火力、原子力、長い歴史の中でこの福島県には大変お世話になってきました。私どもは大変なご恩を頂いているわけです。残念ながら今は、このご恩を仇で返してしまっている結果になっております。しかし、私どもはこのご恩を忘れてはなりません。必ず受けたご恩はお返しします。今年巳年でございます。古来、巳は受けた恩を忘れないと例えられています。私自身も今年、年男として、新たな気持ちで受けたご恩をしっかりとお返ししたいと思っております。

私はこの三が日、福島の現場第一線職場を訪問して参りました。昨年来、福島第一原子力発電所では、命をかけて現場を守って頂いています。福島第二原子力発電所も、大変な努力があつて事故を免れた体験をしております。原子力部門だけではありません。福島第一の事故の収束のために流通部門や土木・建築部門をはじめ、様々な部門の方々が一緒になって命がけで働いて下さっています。広野火力発電所にも訪問して参りました。広野火力は津波で大変な被害を受けました。社員と協力会社社員は、命からがら高台に逃げました。そのような中でも、自分の命も顧みずに消防車を守った人たちがいます。何故かと聞きました。消防車がなければ火力発電所は運転できないという決まりになっているため、自分の命も自分の車も投げ捨てて消防車を守ってくれたのです。猪苗代電力所、浜通り電力所の人たちも変電所、開閉所を守るために命がけで頑張ってくれました。私は感激、感謝しております。昨年来、電気料金の問題、賠償の問題、除染の問題に、営業部門、用地部門をはじめ、様々な部門の方々に色々な仕事をやって頂いております。心から感謝しております。これこそ東電魂の発露だと思いました。私どもは取り返しのつかないことを起こしてしまいましたが、必ずこれを克服しなければなりません。また、東電魂を結集することにより、福島に100年に亘るご恩を頂いてきたことに対してきちっとお返しすることが必ずできると思っておりますし、必ずしなければならないと思っております。

福島第一の事故は歴史に残る事故であります。しかし、それを踏まえたうえで、これもまた歴史に残る大事業である福島の再生に、私どもはこの東電魂をもって、この責任をしっかりと果たし、受けたご恩を常に忘れず、被災されている方々の苦しみを常に忘れず、必ずご恩をお返しします。

新たな皆さまと共に今日この場で決意いたしまして、私の所信表明とさせていただきます。